

また、図2-2に示されたように、当該領域内において、どの順番で課題達成が求められているかについての意見は必ずしも一致しておらず、両者の意見はこの点でも異なっているといえる。

『日常生活』『職業生活』を除く、他の6領域では、ほぼ全ての課題で有意差が認められた。特に「できなくてもさしつかえない」とされた回答にその差が顕著である。ただし、これらの6領域については、雇用経験の有無によって領域内で重要と考える課題の並び順が類似している領域と異なっている領域に分類できる。

領域内で重要と考える課題の並び順が類似している領域は、『作業』（図2-3）と『職業に関する知識』（図2-4）の2領域であり、これらの領域においては、回答傾向に有意差が認められたとしても、当該領域内において、どの順番で課題達成が求められているかについての意見は一致しているといえよう。

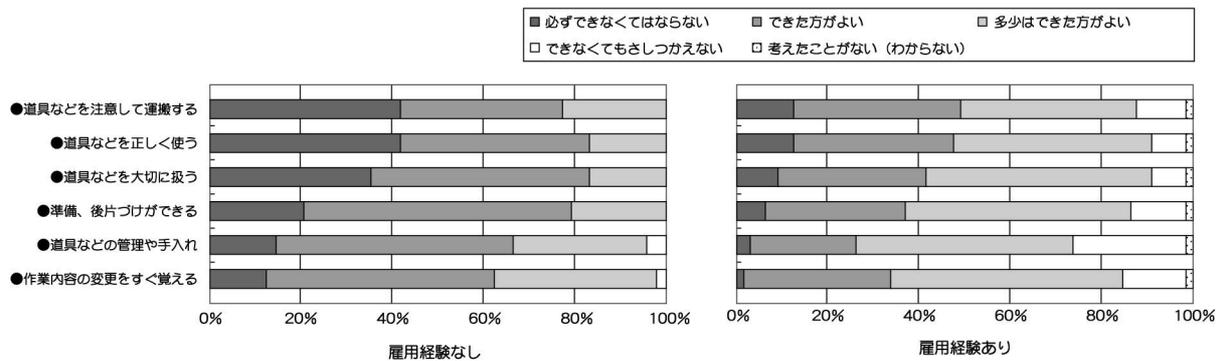


図2-3 雇用経験の有無別にみた『作業』についての回答

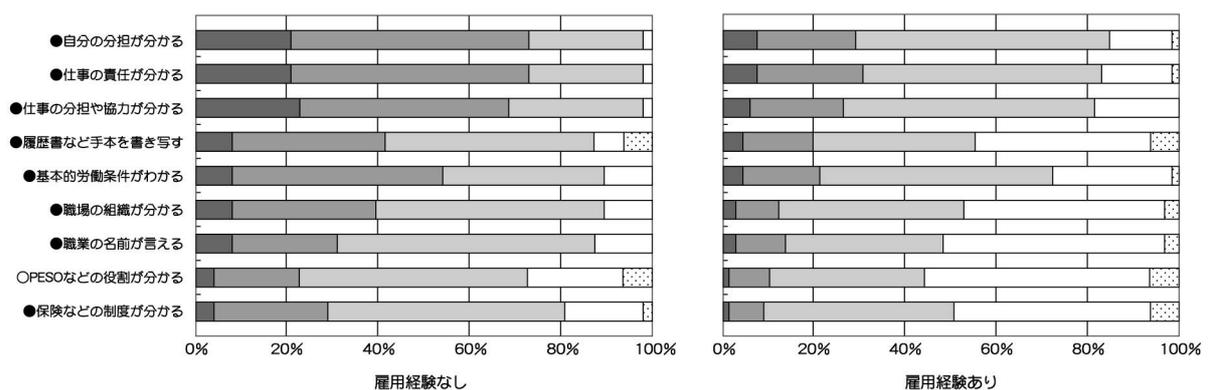


図2-4 雇用経験の有無別にみた『職業に関する知識』についての回答

また、『一般的な知識』（図2-5）と『特徴』（図2-6）の2領域については、それぞれの領域内で1課題ずつ（『一般的な知識』では「警察署などの働きがわかる」、『特徴』では「向いている